

第5回（平成26年度第4回）小金井市男女平等推進審議会

日 時 平成27年1月19日（月）午前10時～11時25分

場 所 前原暫定集会施設1階 A会議室

出席委員 10人

会 長 井 上 恵美子 委員

副会長 遠 座 知 恵 委員

委 員 小野寺 千鶴子 委員 加 藤 由喜枝 委員

瀬 上 ゆ き 委員 濱 野 智 徳 委員

藤 田 とよみ 委員 井 爪 利恵子 委員

神 田 正 美 委員 本 川 交 委員

欠席委員 0人

事務局職員

企画財政部長 川 合 修

企画政策課長 水 落 俊 也

企画政策課長補佐（男女共同参画担当） 秋 葉 美苗子

企画政策課男女共同参画室主任 岩 佐 健一郎

傍 聴 者 1人

（午前10時開会）

◎井上会長 それでは、始めさせていただきます。

ことしもよろしく願いいたします。

きょうは、今年度最後の審議会です。既にお送りしてあります提言書（案）として、今回の調査報告書に関する意見、評価の文章を皆さんで作成してきました。これを最終的に確認するというのがきょうの一番大事な部分になります。

そして、この提言書は、きょう確定しましたら、私と副会長の遠座委員とで市長へ提出するという段取りになります。よろしく願いいたします。

時間があったら来年度、次に何をするかということで、現在のところ、意識調査をしようという話が出ておりますので、それに対しても少し皆さんで議論をして、次につなげていきたいので、よろしく願いいたします。

1つ目の議題であります調査報告書についての提言（案）の検討について、前回の審議会では皆さんから御意見をいただきまして、幾つかの箇所を修正しました。

事務局からそれについてお願いいたします。

◎企画政策課長補佐（男女共同参画担当） 変更点をご説明いたします。

資料の2ページ「審議の経過」については、特に前回より変更はしてございません。

2番目の項目の「第4次男女共同参画行動計画推進状況調査報告書（平成25年度実績）に対する評価及び意見」の「（1）経過と総論」の前半部分は一部文言を修正させていただいております。

後半部分の「その一方で」の後の表現ですが、前回、御意見がありましたので、こちらの文言を全体整理して変更してございます。

「（2）各施策についての意見」ということで、冒頭に基本目標の施策の方向ごとに項目を列挙したということで、文章を挿入いたしました。

あわせて、項目の施策の方向の後に、基本目標Ⅰ～Ⅳと施策の方向番号を挿入し、体系と照合しやすいように整理いたしました。

具体的に申し上げますと「ア 人権尊重・男女平等意識の普及・浸透について」というところでは、前回、御意見がありました「また」以降の文章ですが、図書・資料等の充実についての文章を挿入いたしました。

次の「イ 男女共同参画を推進する教育・学習の推進」のところでは、公民館の表現と研修等について前回、御意見がございましたので、文言を修正し、変更しております。

前回、ウに内包してあったものを単独で項目立てするということで「エ 家庭生活との両立支援」とし、学童保育についても含めまして、修正し、変更いたしました。

順次番号が繰り下がっていきますが、「オ 暴力の未然防止の意識づくり」のところも一部文言を補足、整理しております。

カ及びキのところは「相談・連携体制の整備・充実」と「政策・方針決定過程への男女の参画」というところなのですが、これは前回、御意見いただきました追加項目ということで、項目を立てまして、全文新規文章を挿入しております。

「ク 市民参加・協働による男女共同参画の推進」というところですが、センター設置ということで前回、御意見がございましたので、センター整備ということで文言を修正しております。

最後、ケのところですが、前回の意見より項目追加しまして、新規文章を挿入しております。

それから、こちらも前回、御意見をいただき、市議会で決議された内容を加えまして、全体的にメッセージを発信するというので、新しく項目3と立てまして、文章を挿入しております。

以上でございます。

◎井上会長 ありがとうございます。

それから、前回、これに計画の施策の体系を後ろにつけると、ここでいうⅢ-1とは何だろうということがわかりやすくなるということですが、この市長への提言にはつけませんが、小金井市のホームページで市民に対して公開するというにしますので、そこにはつ

けるということにしております。

皆さん、改めてこれを読んでいただきまして、いかがでしょうか。どの項目からでも結構ですので、御意見をいただきたいと思っております。

◎加藤委員 整理していただいてありがとうございます。これでよろしいかと思っております。

◎井爪委員 とてもよく整理されてわかりやすくなっておりましたので、これで結構です。

◎井上会長 よろしいですか。

では、1つ目はこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

そうしましたら、議題の2です。来年度の活動についてです。今、第4次男女共同参画行動計画を進めているわけですが、再来年度から第5次の計画をつくります。私たちの任期はとりあえず来年で終わりですので、その次の委員の方々が担当です。

2015年度は、新しい行動計画をつくるために市民の方々に意識調査をして、それを参考にしながら計画をつくるという段取りということです。ただし、まだ来年度の予算が確定していないので、どういう意識調査をしたいかという御意見をまずはいただくということです。

第4次行動計画をつくる際に、意識調査をしました。1つが市民への調査、もう一つは職員の方々への意識調査で、2種類したわけですが。既に皆さんのお手元に届いていると思っております。

小金井市では、近々だけでも、平成12年と20年と24年に意識調査をしてきました。これらをもとにその時々プランをつくったり、進捗状況はどうかと確認をしてきたわけですが。長期的な視点で比較をするために基本的な質問項目は大体は同じでやってきたのですが、もう一回見ますと、最初と2回目の間が8年あいて、次が4年あいて、今回ということなのです。今回の行動計画、通常ですと5年ずつでやってきたのですが、小金井市全体のプランとの関係で、4年ずつで今回は期間が短い行動計画になっております。

基本的に同じ項目でアンケートをした方がいいのか、それとも、ちょっと期間が短いので、がらりと変えてやってみて、またそこから次の意識調査へ反映させてということがあってもいいのか、どちらがいいかと思っております。

がらりと変えるなら、第4期の行動計画が「人権」と「ワークライフバランス」というのをキーワードにしているので、例えばワークライフバランスを軸にした調査をしてもいいのではないかと。小金井市の私たちの行動計画でワークライフバランスというのは、単に働いている人の家庭との両立だけではなくて、例えば高齢の方々の生活との両立ということも含まれていますので、そういうのは一生涯のさまざまな男性、女性にもワークライフバランスをキーワードにしてもいけるかなと思うので、そういう点でどうかと思っております。

結果的にはいろいろ質問項目を考えていたら、意外と今までの意識調査と似てしまったということがあってもいいと思うので、どういうことで調査をしたらいいか。どのようなこと

でもいいので、御意見をいただいて、それをもとに次回から議論していくというように進めたらどうかと思います。

例えば高齢者のところをしっかりと聞いたほうが、そこを中心にすべきだということで、これから高齢社会ですからそういう御意見も結構だと思いますし、いかがでしょうか。

◎加藤委員 具体的には余り考えてきていなかったのですが、小金井市に生まれて、住んで、先ほど井上会長がおっしゃいましたが、私は自分自身が高齢になって、ライフスタイル、退職して小金井市民としての生活が100%になったわけなのですが、そういったところで、女性も男性もどこかに集って何か楽しく生活できる場、公民館とかいろいろありますが、そういう場づくりとか、今、防災のことが言われておりまして、ちょうど阪神・淡路大震災から20年ということでもいろいろ報道がありましたけれども、コミュニティ、日常的な人のつながりというのが都会のほうがつくりづらいと思うのです。だから、そういった日常的に人が交流できるようなライフスタイルができればいいなと思っていて、皆さんがどう感じているのか。

防災の面でも、男女平等の観点から、いろんな具体的な行動があると思うのですが、そのところで男女の格差とかが出るケースもあったかと思うのですが、例えば実際に東北の大震災のときなどにもいろいろな場面で女性が困ったりとか、役割分担もうまくいったところとっていなかったところがあるという報道も聞いていますので、日常的にそういう視点に立った、こういうときには女性の観点でみられるとか、女性ならではの設備が必要とか、そういったことがお互いに話し合いができるような場づくり、きずなづくりというのができたらいいなと思っています。

ただ、例えば子どもや若者たちがどんな意識でふだんくらしているのかということもわかるようなアンケートのとり方についても新しい視点で考えてみてもいいかなとは思っています。

◎井上会長 ありがとうございます。

何がアンケートでできるか、どこでとれるか、ちょっとまだわからないけれども、とにかくいろいろなアイデアを出していただきたいです。

いかがでしょうか。

どうぞ。

◎瀬上委員 井上会長のお話で、例えばの案としてワークライフバランスについてふやしてもいいのではないかということで、平成24年の市民意識調査では、ワークライフバランスについては問7と8と9の3つだけみたいなのですが、ただ、まだきちっとは読んでいないのですが、後のほうを見てみると、問12の女性が仕事を持つことについてあなたはどのように考えますかというのは、例えば子どもができたらやめて、子どもが手がかからなくなったら仕事をはじめたほうがいいのか、こういうのはワークライフバランスの項目に入れてもいいのではないかと、後のほうに妊娠や出産のこととかもあるので、ワークライフバランスのところたくさん数を、ふやさなくてもワークライフバランス的視点の項目があれ

ばいいのではないかという気もするのですが、ここに1点にまとめてワークライフバランスともうちょっときちっと項目をふやしてもいいのかなと思うし、そこははっきりとわからないのですが、ただ、3つは少な過ぎるのではないかという気がします。

◎井上会長 ありがとうございます。

今までの調査にまったく入っていないからという意味ではなくて、どういうことを聞けばとか、また、小金井市に住んでいらっしゃる方々がどういう悩みを持っているとか、どういうことを知りたいかというところをもうちょっと考えられるといいと思うのです。そういう意味で、日ごろ皆さんが生活していらっしゃる中で、こういうことに困っているとか、こういうことが小金井市はいいなと思っている、ではほかの人はどう思っているだろうとか、そうしたことを出していただくといいと思います。

私も途中で小金井市に引っ越しをしてきて住んでいるのですけれども、私は小金井市っていいなと思っていて、20代の息子なども、住むなら小金井市に住んで、別に私たちと同居したいというのではなくて、ひとりで住むにしても小金井市っていいねというのを聞いて、私も保育園とか学童で知り合った方も、意外と小金井市出身の方がいらっしゃるという、何かいろんなところで知り合った人がお互い友だち同士だったりとか、小さいサイズの地方自治体で、自然もいっぱいあるし、都心の近郊、それなりに適度な場所にもあるしといういろいろな条件がそろっていますので、よさを生かしながら、もっとどの部分を重要視していくか、男女共同参画という視点から何をするといいかが具体的にわかるような調査だと有益かなと思っています。

◎加藤委員 3年前なのですけれども、小金井市で娘が出産をしようと思ったのです。そうすると、桜町病院しか産院がないのですね。産院が今、非常に減っている。それから、小児科も非常に込んでいたりとか、保育園が入りづらい、そういったことなのですが、子育てをするのに非常に産むところから大変という状況を経験しまして、去年12月に娘のところへ2人目が生まれたのですが、上の子の保育園があるので、埼玉なのですが、自宅のほうで出産をしたのです。そういったことで、里帰り出産は2人目以上は非常にしにくいなこととか、育児にかかわってのことだけ申し上げると、家にお母さんたちは2人目を出産したときに本当に大変だろうなとつくづく感じました。

今は週の半分ほど娘のところへ泊まる生活をしてしていますが、保育園は原則9時から16時半までしか預かってくれないので、私がいなときは、娘が下の1カ月の子を家に置いたり、あるいは連れてって保育園の送り迎えをする状況なのです。では、家にお母さんとはというと、小さい子どもを抱えながら24時間育児をする。育児ノイローゼとかいろいろな問題も起きていますが、そういったケアは、小金井ではどうなっているのかなど、非常にいろいろ考えさせられました。

同時に、母の介護があるので、市内でもいろいろ有料老人ホームはいっぱいありますが、二十数万のお金がかかりますので、なかなか入れないけれども、公共のところへ

はもう何十万という方が待っていらっしゃるそうで、母も小金井市ではないのですが、有料老人ホームに去年入ったのですが、そういったところでのことも含めて、今は非常に個別には人が暮らしにくい状況がいっぱいあるなど、定年退職後いろいろなことを、逆の意味で、今までは仕事をする上でのことでいろいろ問題点を感じましたが、ふだんの生活の中で育児から高齢者のことまで感じてきていて、皆さんがどのように工夫してやっていらっしゃるのかとか、具体的にはどのように困っていらっしゃるのかというのを考えています。

貫井北センターというのができまして、お友だちと月1回食事を楽しもうということで、調理室をお借りして食事づくりをしながらわいわいやっているのですが、そういうところに若いお母さんたちも来てもらって、何かできるといいねという話もしているのです。そういったコミュニティづくりが今、公民館などでもいろいろやっていらっしゃると思うのですが、意識があるというか、来られる方はそこにあるのを知っているけれども、そうでない方はどうしていらっしゃるのかなというのを感じているところです。

◎井上会長 ありがとうございます。

ほかの方々もいかがですか。

◎井爪委員 やはり育児がしにくいというのは現実問題として小金井にはあると思います。保育園が少ないのです。待機児童が250人もいるということはかなり厳しい状況だと思います。

つきみの園という特別養護老人ホームが中町にあるのですけれども、待機者が500人ぐらいおりますので、非常に介護の必要な高齢者がいらっしゃる御家庭は大変な思いを、老老介護をしていらっしゃるということです。

ただ、スタッフもなかなか見つかりませんので、少なくとも数だけつくればいいという問題ではないかなと感じております。お子さんを育てている方たちでお互いに親同士が参加するような児童館の活動ですとか、児童館でなくても個人のお宅を開放して、近所のお子さんが集まって、お母さんたちも集まって、そこでひとときを過ごすという活動をするということもあります。

そういうことの周知がいま一つできていないかなと思うので、その辺を皆さんになるべく理解していただきたいという、周知の問題が課題としてあるのではないかと思います。

これは初めて拝見したのですけれども、子育てのことや介護のことや生活の仕方が現在どうなっているかということに関しては、最初のほうの項目のところはそのままで必要ではないと思います。意識も4年前とは大分変わっていたり、状況が変わっているのが見えてくるのではないかなと思っております。最初の家庭生活のところの間3とか間4というのは4年でどのくらい変わっているのかみたいだと思いますので、同じ項目はあってもいいのかなと思っております。

そんなにはっきりとしっかり読んでいないので、どのようにしていいのかというのはわからないのですけれども、私の感覚では。

それから、井上会長が先ほどおっしゃられたように、高齢社会になりますので、介護の問題が多分、大きくなってくると思いますので、介護となると先に具合が悪く介護が必要になった方に対して家族が対応しますので、男性も相当数介護に当たっています。その辺の実情がわかるものも大切なことではないかと思います。男性で奥様の介護をしていらっしゃる方は結構いらして、非常に徹底的に献身的に介護をする方が多いので、感心しますので、そういう姿が見えてくるのもいいかなと思います。

◎濱野委員 1番の家庭生活についての問1と問2で、現状と理想というアンケートのとり方をしているので、そのギャップの理由を聞く質問だとか、意見を書く欄があってもいいのではないかと思います。

◎井上会長 ありがとうございます。

要は、理想と現実ギャップがあるというときにその理由は何か、例えば職場が忙しくて無理だということかもしれないし、聞くといいということですね。

◎濱野委員 誰にも相談しなかったのはなぜですかというような選択肢が出て、理想になっていないのはなぜですかみたいな感じで選択肢とか自由に意見を書く欄があってもいいかなと思います。

◎井上会長 ありがとうございます。

◎藤田委員 お世話になります。

小金井市に住んで思ったことということでしたので、ちょっと今、思っていることとしては、PTAに携わっていますけれども、PTAの立場からいうと、働いている人も参加しやすい活動になっている学校が多いのかなということを感じます。

でも、その中でも小学校などではまだまだ昼間に活動することが多いので、働いている方たちの参加が少ないのかな。そういうところをもっと改善して、働いている方が多くなっていますので、働いている方は能力なども高かったり、多彩に持っていらっしゃる方が多いので、そういう方でももっと参加していただけるようにすることが必要かなと思ったりしています。

あと、私個人なのですがけれども、昨年、介護に突入したのです。まさに今、40代後半の私の周りは本当に同時に介護がスタートしているのです。そのときに、育児といいますと、割と育児を相談する児童館とかそういうところがありますけれども、介護に突入になったときに、相談するところが友だち同士で手探りで情報は交換できるのですが、介護を経験した先輩方に聞けるようなところがあるといいなというのをすごく感じています。

例えば急にヘルパーさんが必要になったとき、では、どこに聞けばいいのかとか、私の場合は市役所に相談したのですがけれども、果たして市役所でよかったのかとか、そういうことをすごく感じた1年でしたので、情報とかがあるといいなと感じました。

まだ、教えていただきたいことがたくさんあるので、よろしくお願いします。

◎井上会長 ありがとうございます。

介護は老老介護問題もあるし、子育てと介護の両方で大変な人たちがいるし、先日テレビの特集を見ていたら20代の若者が若年性認知症の親を介護するために仕事にもつけないとか、いろいろな問題がありますね。

あと、介護する状態になったときに最初にどの窓口、誰に相談したかで当たり外れが決まるというのを聞きました。

◎藤田委員 ケアマネという言葉もよくわかっていなかったし、携わってよくわかったのですけれども、ケアマネさんがいい方に当たるとすごくいいとか、ケアマネさん次第で介護のサービスも変わるとか、そういう情報も本当によくわからないので、もっと聞ける場とかがあれば、多分、私たちみたいな人間もみんな聞きに行くかなと思います。教えてもらえる先輩が周りに、同居している方が少ないので、行って介護するという、そういうことを感じました。

◎井上会長 保育園とかは妊娠して10カ月間の間にということができるけれども、介護はある日突然倒れて、その日からが大変という、そこがいろいろ違いますね。

ありがとうございます。

いかがですか。ぜひ全員の方からお願いしたいと思っていますので。

◎本川委員 具体的なことは私、まだこれを読み込んでいないのでちょっとわかりにくいのですが、ここでまた質問みたいな形になりますが、18歳以上の市民を対象にと前は書いてありますね。18歳以上の市民を無差別に2,000人選んだという。

18歳以上という根拠を教えてくださいたいと思うのですが、私はできればなのですが、もう少し若い世代、男女共同についてこれから実感していくような子どもたちというのですか、中高生当たりの意見も聞きたいなという気はしております。

介護のことについても何でも、これからそういうのを背負っていかなければならない子どもたちですね。だから、今の子どもたちは結構情報がたくさんあるので、いろいろなことについて考えている子どもも多いかと。神田先生がいらっしゃるからうんとお話しただけかなと思うのですけれども、大変立派な意見を持っている子どもたちも多く見られます。なので、そういう子どもたちにも聞いてみたいという気はいたしますので、お考えいただけるのであれば検討していただけたらと思います。

◎企画政策課長補佐（男女共同参画担当） 済みません、余りはっきりはわからないのですが、その前の調査でも家庭生活とか労働に関する設問もありますので、もしかしたら就労年齢ということで18歳からにしたのではと推察します。

◎井上会長 ありがとうございます。

中高生ももしかしたら視野に入れるということを記憶にとどめておいて、今後検討していきたいと思います。

◎本川委員 今、申し上げたのは、次世代を担っていく青少年がどのような考え方をしているのかなということを知った上で施策をするということも大切なことかなと思いますので、

検討する場所があるのであれば、検討していただきたいと思います。

◎**濱野委員** 本川委員の意見に関連することなのですけれども、まず、1ページ目を見ると、調査の概要の回収結果というところで、大体回収率が30%弱ぐらいになっているのです。77ページにあなた自身のことについてとあるのですが、このあなたの年齢はお幾つですかというところで、データを見ると70歳以上が一番パーセンテージが20%で、逆に20歳代は10%とかで、多分、回収率の関係とか人口構成の問題で、かなりそのあたりのバランスが崩れているかなということ。

65ページを見ると、今度は70歳以上の方の意見で、70歳以上でひとり身の者にこんなアンケートは無意味だと思いますという回答まであるので、ちょっとサンプルのとり方を検討したほうがいいのではないかと思います。

◎**井上会長** ありがとうございます。

丁寧に調査報告書を見ていただいて、ありがとうございます。

◎**遠座副会長** 無作為抽出ということなので、18歳以上のもともとのアンケートを依頼している方の対象年齢というのは、ここの時点でそもそもばらばらということになりますね。

では、これを今度はもう少しこの世代に聞きたいとか、子育てとか介護とかがすごく負担になっているような世代を中心にもう少し回答してもらいたいとか、そういうことも。

◎**企画政策課長** 機械で抜き出しているだけなので、やり方として、小金井市の年齢構成にあわせて18歳以上の、大体同じような年齢構成でやるようなアンケートもありますし、場合によっては30代とか40代のところに手厚く構成割合を多くして出すようなことも可能なかとは思いますが、その場合、その割合にした根拠が必要になると思います。そういったことが整理できれば、物理的には可能だと思います。

◎**井上会長** ありがとうございます。

神田委員、先ほど御指名がありました。

◎**神田委員** 自分が教えている中学生たちはこういう現状をもっと知らないといけないなということで、どのように教育していくかということも考えながら見ていたのですけれども、子どもたちの中には先ほどの本川委員のお話のようにしっかりした考え方を持っている子がすごくいるのです。そういう子が社会に出て、だんだん数の面で薄まっていってしまうような部分もあるので、どうしたものだろうというところが1つ。

こういうアンケートをとったときに、非常に回収率が低くなるのは意識の面でも低いということもあるのかなということを思います。もうちょっとアンケートの回収率を高める方法が何かあれば、もうちょっと違う実態も浮かび上がってくるのではないかという感じがします。難しいですが。

◎**井上会長** ありがとうございます。

小野寺委員からいかがですか。何かあれば。

◎**小野寺委員** 私は個々に小金井の問題ではなくて、テレビを見ながら、また、ニュースを

聞きながらいつも感じますのは、日本全体で介護する人が不足しているということです。この現状をどうやって解決していったらいいのかと常に思っているところでございます。

◎井上会長 ありがとうございます。

◎遠座副会長 私は、先ほど伺っていて、結局それぞれの意見を伺うと、ほとんど今までやってきたこと全体のこともかかわってくるという感じがあるので、それをどこかに重点化して、それと関連づけてやっていければと思います。

それから、介護については確かに今までアンケートの質問では上がってなくて、学芸大学などでも介護を必修とした教員交流会みたいなものをことしから初めて開催したのですが、やはりニーズがあって、そこに参加する人のほうが今までの育児よりもどちらかというといふ傾向がありまして、社会の関心というのがそういうところにあるのかなと感じるところでもありますので、それについては何かしら、どれだけ入れるかは別にしても、ここに込めたらいいのかなと感じました。

◎井上会長 ありがとうございます。

ほかにも何か御意見ありますか。

◎濱野委員 審議会でも一度意見があったと思うのですがけれども、男女平等推進センターは箱ものづくりだと勘違いされているので、この名称は早急に見直したほうが誤解を生まないかなということが1つ。

あとは、意見が目立つのは、男女平等という言葉自体が古いということなので、それに反論しての意見が結構多いので、具体的な例は控えさせていただきますけれども、審議会の名前とかもほかの自治体とかでもっと内容に合ったような表現があるのだったら、男女平等以外の言葉を使うことも検討してはいかがでしょうかと思います。

以上です。

◎井上会長 ありがとうございます。そうしましたら、次の審議会までに、予算確定があり、どういう形になるかというのが具体的に上がった上で、皆さんとここで続きの議論をすることになると思います。

では、この件に関してはここまでにさせていただきます。

今年度の審議会はこれで終わりなので、参加していかがだったかと率直な意見とか、プランや提言のことなど、一言ずつお願いできたらと思います。

◎小野寺委員 私は今回、初めて委員になりまして、実ははてはてとっておりました。最初は皆様の御意見とかお話とか、流れを知りたいなと思って、聞く耳だけを持っておりました。大体のところはわかりましたので、次からはちょっと発言もさせていただくのかなと思っているところです。

それから、先ほどの、確かに男女平等という言葉が使い古されてほしいなという気持ちはございます。ただ、いろいろな問題もあるでしょう。男女平等という言葉がなくなるときには、それこそ本当に男女平等になっているのではなからうかと自分では思っております。

以上でございます。

◎加藤委員 男女平等については、実生活の中での話なのですけれども、学校生活は別にして、年代によってかなり違うのだなと思っています。娘夫婦などを見ていまして、学生時代に男女平等という言葉が普通にクリアしてしまって、平等な家事分担をやっていますし、育児もしているように見えているのです。ただ、企業社会というのはまだまだ男性社会なので、そういう中で、娘夫婦たちが中堅になり、管理職になるような年代になったときに、本当の意味で男女平等社会がつくられるような企業社会のあり方、日本の経済のあり方を含めて、働き方を変えていく必要があるのではないかと感じています。

以上です。

◎瀬上委員 先週の木曜日に、小金井市民交流センターで上野千鶴子さんの講演があって、タイトルが「この国でジェンダー平等が遅れているわけ」というので、結論を簡単に、おやじの力がまだ強いからということを書いていたのです。でも、女の側にも責任というか、原因はあるのではないかと、アンケートを丹念に見ていないのですけれども、42ページの、最終的に頼りになるのはやはり男性であるというので、そう思うというのが、男性が3.3%なのに、女性のほうが倍以上の7.4%で、だから、男性で最終的に頼りになるのは男性と思って書いた人がなくて、女性のほうが半分以上多いというのはおもしろいなと思って、女性にも男性を頼りたいという意識は強いのだなと思いました。

それでどうすればいいのかということがこの審議会の課題でもあると思うのですけれども、今、第4次行動計画ですね。だから、再来年からが第5次なのですか。今回は余り関係ないというわけではないですが、第5次のことは特に意識しなくてもいいということですか。ある程度はそれも見通しつつという感じですか。

◎井上会長 2015年度に意識調査をして、その結果について議論すると、5次のプランに入りたい項目も出てくると思います。たくさん出していただいたほうが、次の計画の策定段階がスムーズに行くと思うので意識はしていただきたい。

◎瀬上委員 その辺の見通しも含めて意識調査をどのようにこれからしていったらいいのかなということも考えたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

◎井上会長 次の審議会のときに、いつからプランをつくり出さなければいけないとか、今後の予定を出していただくといいかもしれないですね。

◎企画政策課長補佐（男女共同参画担当） 第2回目、今年度初めのときにスケジュールの資料をお出ししていますが、また改めてスケジュールをお示ししたいと思います。

◎井上会長 この第4次のプランをつくる時、時間がなくて大変だったので、見通しを持ちながらつくっていったほうがいいですね。

◎加藤委員 済みません、感想を追加していいですか。

ここ2期やらせていただいて、一生懸命検討し、アンケート調査を実施しているのですが、

回収率を見て非常に愕然とするものがあるのです。

先ほど神田委員がおっしゃいましたが、どうやって回収率を上げたらいいのか、あるいはこういったものをどうやって審議に浸透していけるのだろうかというところを非常に感じています。そういったところの工夫がないと、2,000人の中のさらに3割弱の回答なので、平均値でいえば全体を見れるとは統計的にはできると思うのですが、もっと市民の目に実際に触れて、参加していただくという方向、今回で言えばアンケートの回収率のアップ、そのことをもう少しやっていく必要があるというのを非常に感じました。

以上です。

◎濱野委員 今回、初めて審議会に参加させていただきましたけれども、非常に多くの問題があって、経済状況が悪い中で現実と理想のギャップを埋めていくのはなかなか難しいなというのが実感です。

例えば自分自身のことを考えても、なかなか男女平等になっているかというのは、ここに書いてあるような理想とするものにはほど遠いということもありますし、ただ、これだけ整理されて、いろいろ取り組みをされているので、実際にここで整理したり、提言されたことができるだけ実行されて、少しでもこのギャップが埋まるように進んでいければと思います。

以上です。

◎藤田委員 私も初めて参加させていただきました、男女平等という言葉を余り意識しないで生きてきた者としての参加でしたので、こういうことが市の中で話されているのだなということを考えさせていただきました。

実際、前回の平成24年の市民意識調査のときに、友だちにこのアンケートが来たのです。私はそのときこの委員ではなかったのですが、その友だちが、何かこんなのが来たのだけれども、男女平等というのがついたアンケートっていきなり来るので、びっくりしたみたいで、市民にこういうアンケートをするとき、何かワンクッションあってからと思いました。

あと、別の話で、先ほど次世代の子どもたちの介護の話がありましたが、今、私も主人と介護をやっていてそういう背中を見せていると、子どもたちも自然にそうしなくてはと思うのかなと思ってやっていますが、実際、ドラマとかで介護のシーンがあったりすると私の子どもなどは、お願い、いつまでも元気でいてねとか言われます。でも、実際そうなったときに、自分の親もおばあちゃんたちの介護をしていたなと見ていてくれたら、少しは分かってくれるのかなと思っていますので、頑張ろうと思います。

ありがとうございました。

◎井上会長 ありがとうございます。

アンケートを送るときの挨拶状から考えないといけませんね。

◎藤田委員 その友だちはいろいろいっぱい書いて出したと言っていたのですが、項目も多いですし、いきなり来るというのが。本当にこれはちゃんとしたものなのかとか、きちんと行政に行くのだろうかとか、そういう意味で。

◎**本川委員** 半年ぐらいでしたか、色々と学ばせていただいておりますが、やはり私は具体的な、男女平等ということに関しては、人としてということが一番頭に置きたいと思っています。男だから女だからというよりも、人としての格差というか考え方を平等にするという観点でいきたいなということをしごく思っているのです。

ですから、このアンケート、具体的に読み込んでいないのでわからないのですが、質問の仕方、例えば仕事を男がする、女がする、外は男で中は女というようなことでいいのかなとちょっと思っているのです。役割分担は当然あってしかるべきだと思うし、共同生活をしている、それは会社の中でも同じですし、家庭でも同じだと思うのですが、それをどのように互いを認め合って、気持ちよく送れるかということを考えていくとしたいなと思っております。自分自身はそういうことでかかわりたい。

それから、小金井市の第4次基本構想・後期基本計画が28年度から。それはもうできあがっているのですか。

◎**企画政策課長** 今、つくっています。

◎**本川委員** つくっている最中ですね。ですから、そこと連動したような形で、市の基本的なことを見ながら第5次男女共同参画行動計画も策定していく方がいいのかなと考えさせていただきました。

こちらが27年度から練り始めるということですね。もしかしたらちょうどいいのかもしれないですけども、出発点も同じような形でいけると本当はいいのかなと考えるのですが、難しいですかね。また4年先、5年先、そういう形になるのだと思うのですが、将来的にそのように考えていただけるとよりいい審議会になっていくかなと思います。

◎**井上会長** 小金井市の基本構想の後期基本計画が28年度からスタートし、第5次男女共同参画行動計画は29年度からスタートするのですが、今の予定では、こちらが4年計画ですので、その次の期から同時スタートになる。そのために第4次と第5次男女共同参画行動計画は4年4年としました。

◎**本川委員** ありがとうございます。

◎**井上会長** あと、国の男女共同参画基本計画も偶然小金井と一緒になのです。国の男女共同参画基本計画と小金井市の第4次基本構想後期基本計画を見つつ、次の第5次男女共同参画行動計画をつくるということになっていきます。

◎**神田委員** 理想を子どもたちに教えているわけですけども、自分自身のことを考えればまだ男女平等になっていない部分がいっぱいありながら生活をしているというところで、悩みながら生活している毎日です。

実際、学校の現場というのは、かなりほかの社会に比べれば男女平等が進んでいると思いますし、教員の数も女性がほぼ半分になっていますので、かなり進んでいると思うのです。でも、その先の例えば管理職になる女性はどれぐらいいるかということ、ほとんどいない。中学校の管理職などしごく少ないのです。2割もいないぐらいなのです。

そういう中で、やはり女性の先生は家で子育てのほうをやっている、男性の教員はそうではないという現実があるのですね。そういうところの中で、子どもたちには理想を教えているという、自己矛盾しているのですけれども、それを何とかしていかないといけないと思います。

小金井市も、ぜひ女性の管理職をどんどんふやしてもらいたいと思うし、そういうところで目に見える形で一つずつ進んでいるのだということを示すことによって、市の方針が全体に浸透していくのではないかと。いろいろやっても、具体的に何か少しずつ変えていかないと、みんなの意識が目に見えた形で変わってこないのかなと思っています。

なかなか現実に進めることは難しいのですが、ぜひ何か具体的な策を探っていきたいと思っています。

◎井爪委員 実は私、昨年読んだ新聞で非常に印象に残ったことがあります。それをとっておいたのですが、世界銀行ってございますね。そこの副総裁されていた方（西水美恵子さん）が書いていらっしゃるのですけれども、職員の研修をしたという話なのです。そのときに、意識調査ということで、2人1組で描かれた絵を持って出てくる。2人1組で出てきて、それがどんどん出てくるのですが、研修を受ける人はどちらの絵がいいと思いますかという質問なのです。それをどんどん自分でとっさに判断していく。

最終的に結果を研修のときに発表され、みんなが選んだ絵は、男性と女性が組んで持っていた場合は男性が持って出た絵、あそこは世界中から集まっていますから、いろんな人種の方がいますね。そうすると、有色人種の人と白人種の人とが持って出てきた絵は、白人の持ってきた絵を選んでいるという。本当にああいうところにいらしている方は、平等意識の強い方なのだそうなのですが、その方たちでも瞬間的にはそういう選び方をしているので、非常にショックを受けたという話が新聞に出ているのです。

ですから、人間というのは潜在的に常にそういう偏見を持っている。それを常に意識して、自分は偏見をどこかに持っていないかということ意識して平等のことを考えなければいけないのだなという話なので、私も余りそういうことを気にしていなかったのですけれども、これからは気をつけなければと思います。何か考えるときに公平な目で見るということは難しいことなのだと感じました。

この方が、もう一つ別のときにおっしゃっていることは、いろいろなところの男女比を、女性を上げようということで、男女比を決めて人選すると、必ず失敗する。やはり能力というか、その人に向いているか向いていないか、という観点で選ぶのがよいということを書いておられました。

◎小野寺委員 それに関して感想です。

昨年の11月でしたでしょうか、第4次男女共同参画行動計画の推進状況、調査報告書の後ろのほうで審議会等における女性委員の比率がございました。都市計画関係など審議会によって女性委員数がゼロであったり、1名であったり、皆さん、御意見があったのです。

9月ごろでしたが、テレビで厚生労働省の公務員の就業状況の結果がありまして、女性の就業率が最も高いのが財務省、経済産業省、消費者庁がベスト3だったのです。ワーストというのでしょうか、下のほうが建設というか都市計画、そちらのほうでしたから、この数字を読んでもさもありなんという、能力というか、意識、女性の潜在的なものというのはこういう理系に余り重みを置いていないというか、向いていないというか、そう言うと怒られてしまいますけれども、そのように感じました。

◎井上会長 適性の問題ということでしょうか。

◎小野寺委員 そうですね。それを感じました。大変余計なことなのですが。

◎井上会長 大事なことです。ただ、例えば理系の女性が少ないという実態はあるのだけれども、ドイツの話を知ったら、女子の数学が苦手な理由を調べたら、教科書に出ている事例、男の子のほうが親しみを覚えるものがよく扱われている。それがわかったので、男女ともに親しみのあるものに変えようと取り組んで、女子に理科や数学の教育を丁寧に行ったら、女子のほうが数学、理科の点数が男子よりもよくなったということでした。

ですから、実態としてどちらが得意かというのは実際にある程度事実なのだけれども、それをそのままにするのか、それとも、もっと積極的に伸ばしていくのか。後者を世界中が取り組んでいます。

その中で、例えば男女比を指定することで、女性にチャンスがたくさん与えたら、適材適所になることがあります。余り形式的なところだけ進めるのではだめだし、かといって、女性がこのジャンルには少ないのは向いていないからだと決めつけるのもよくない。そこをいろいろと試行錯誤しながらやっていくことが大事だと思います。

それこそ、私が大学生のときなどは、法学部は1学年150人の中で、10人に満たない女子しか学生はいなかったですけども、今はすごくふえていますし、工学部でも女子学生がふえています。そのように見ていくと随分変わったなど、何もポジティブアクションをしていない日本も変わっていますし。小金井市がどういう施策をしていくことが大事か、いろいろ議論しながら進めていけたらと思います。

あと、小金井市の審議会では、男女平等という言葉が使われている件ですが、ずっと男女平等という言葉でやってきて、ようやく国が推進法をつくるというときに、政府が男女共同参画という言葉を使い出してきました。法律をつくるときに、男女平等という言葉を使ったら法律を成立させないという議員の人たちもいたので、苦肉の策で男女共同参画という言葉を使い、これならばオーケーということで、男女共同参画推進法ができたということです。

男女共同参画というのは、言ってみれば社会にも男女が参加して、そこの担い手になるという意味で参画、そして、家庭領域にも男女が参画する。あらゆる分野に参画をするという法律なのですけれども、従来、男女平等という言葉で運動を進めてきた人たちから言えば、参画してもそこが平等になっていないならばだめではないかと、そういう意味で平等という言葉が消せないのだとのことでした。

男女共同参画を進めるのはいいのだけれども、そのときに、先ほど言ってくださった言葉で言えば、人としてちゃんと平等というのが保障されることが大事だからというので、この審議会に「平等」という言葉をあえて残し続けてきたのだらうと、私はこの委員になったときに理解しました。

東京都も「平等」という言葉を今も使い続けております。ただ、それが市民にどれだけびんと来るかというのは別のことなので、もっとわかりやすい、例えばアンケート調査の見出しももっとみんながピンとくるような言葉に工夫するのはいいことだと思いますし、またもしかしたら現在、ジェンダー平等という、ジェンダーイコォリティーという言葉は日本政府の正式な翻訳の言葉になっていますから、もっとジェンダーというのが、性的マイノリティーの人たちのことを含めて言うと、男女ではないほうがいいということもあるかもしれません。

そういう意味で、これからまた変えていくこともあり得ると思いますけれども、そのようにいろいろこだわりながら何が一番いいか、こういうときはこう使おうとか、そういう点でも話ができるいくといいと思います。

◎遠座副会長 私は、大学のほうでは男女共同参画推進本部というのに3年ぐらい前から入りまして、その関係でこちらにもお世話になっているということなのですが、それ以前に本当に男女平等とか男女共同参画とかを特に深く考えたことがなく、そういった活動に参加させていただくことになりました。

大学でもこちらでも、いろいろやってきてみて、いつも感じるということなのが、すごく重要な問題を扱っているのですけれども、なかなか全体に広がっていかないといいますが、男女共同参画とか、男女平等とか、自分もそういうことにかかわる前には、ネガティブな印象みたいなものを持っていたのかもしれないと振り返るところがあるのですが、そういう人たちが一方でいまだに多くいて、その一方で、これは重要だからやっていくという間のギャップというのがものすごく今でもあって、この話し合っている問題なども負担だとか被害だとかというのを、本当にそこに直面している人にとってはものすごく深刻な問題なのですが、そういう人たちと面倒くさいと引いている人たちの間の意識のずれというのはものすごく深くあって、それを本当にこういう問題の当事者ではない人たちにとっての当事者意識みたいなものが、それがどういうもので、どうやったらいい方向にできるのかなということがいつも大学でもこちらでも考えることです。

そういうギャップとか溝みたいなものが少しずつ埋まって行って、いろいろな人がいろいろな形で考えられるようになるといいなと思っています。

◎井上会長 ありがとうございます。

1年間本当にありがとうございました。今期は提言を出す、コメントを出すというところで、初めての試みだったので、どのようにやっていったらいいのだらうと、私もわからない中だったので、皆さんの御意見でまとまってほっとしています。

それから、今期は新しい方々が多かったので、その点でもどんな審議会になっていくのか、最初会長としての責任をととても重く感じていたのですけれども、本当に御協力いただいて、気持ちのいい審議会になりました。

私たちの期の後半がまた次に始まりますので、またどうぞよろしく願いいたします。
きょうはこれで終わらせていただきます。

(午前 11 時 25 分閉会)